福岡県　グループホーム　陽だまりの丘
平成　27　年度

平成27年5月8日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4074100100		
法人名	医療法人成雅会		
事業所名	グループホーム陽だまりの丘		
所在地	福岡県粕屋郡須恵町新原14番地の7		
自己評価作成日	平成27年3月20日	評価結果確定日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

病院と併設しており、緊急時、終末期の協力体制ができている。また、関連施設も併設しており利用者の状況、家族の要望に応じて相談を受け対応している。敷地内にある畑で出来た野菜を収穫したり、気分転換に屋外へ出かけたり、春には桜の下で食事会をして季節を感じて頂ける様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所15年目を迎え、法人理念を具現化すべく前年度の目標を振り返り、今年度の目標や研修計画を作成し、全ユニットとも入居者に関する詳細な気付きを伝達ノート等で共有し、入居者の安心した生活支援に努めている。地域の方からの相談を受けた地域包括支援センターからの要請で入居者を受け入れ、家族と過ごす時間を支援したり、経口摂取できなくなった入居者の看取りをその時々の家族の意向を傾聴しながら支援している。3ヶ月もの看取りは、職員の疲労や重圧感も強かったが、医療と連携しながらチームで支援する好機となった。今後も家族会や運営推進会議の理解や協力を得ながら、法人理念の誠愛を目指したケアが期待できるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**1丁目1番地/陽だまりの丘**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠愛」を理念として掲げ認知症ケアの専門施設として、その人らしい生活が送れる様支援に取り組むと共に地域貢献に向け努力している。	理念の具現化のために、前年度の目標を振り返り、平成27年度の目標や研修計画を作成している。各ユニットとも、入居者に関する詳細な気付きを伝達ノート等で共有し、入居者の安心した生活支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材購入を地域商店など利用し、また地域のお祭り参加や近くの保育園発表会参加している。	地域ボランティアの来所や保育園児との交流が継続している。馴染みのある地域の祭りを見学したり、初詣に出かけたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要望があれば、認知症について話をしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの状況報告を行い、地域の方や家族から意見を頂き、ケアの向上に生かせる様に努めている。	母体医療機関から事務長やMSW、地域代表、家族が参加し、隣接する小規模多機能事業所と合同で会議を開催し、日頃の暮らしぶりや転倒等について報告している。行政担当者が参加できない場合は、会議内容を随時報告している。	定期発行のファミリー通信で、運営推進会議内容等について報告し、より多くの家族に理解や協力をお願いされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換に努めている。	地域の方からの相談を受けた地域包括支援センターの要請で入居された方もあり、日頃から円滑な情報交換や連携をしている。地域の他職種連携会議にも定期的に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者会や全体会議などで抑制について話し合いを行っている。また、法人研修にも参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スピーチロックをビデオ学習で実感し、今年度も身体拘束について学習予定である。会議で夜間転倒防止策を話し合い、導入された電動ベットの高さを調節したり、柵の位置の検討や、ベット下にマットを敷くなどの工夫、夜間の巡回を密にしたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム内で勉強会を開催し、また、外部研修にも参加しスタッフ教育している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会やホーム内での勉強会開催し、理解を深めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット等を整備しているが、現在まで活用者はいない。相談窓口として併設の医療法人に地域連携室が設けられ、重要説明書にオンブズマンの連絡先を明記している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時などその都度家族へ説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、その結果を分析し改善策をまとめ運営推進会で報告し、また、家族会に反映している。	定期的な家族会が開催され、毎回27～28家族が参加し、顔馴染みになる家族もある。家族アンケートを実施し、集計した結果や要望は書面で報告や回答をしている。スリッパの買い替えの要望は実行される予定である。前回 の家族会では、介護保険の改正について説明 している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で意見、提案を確認し改善、検討を行っている。	各ユニット会議、全体会議、管理者会議と4つのユニットの職員の意見が共有できるシステムを構築している。管理者会議では、各ユニットで統一したケアができるように、各ユニットの悩みや業務内容について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面接を行い、各自の意見を把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や男女問わず、仕事に対するやる気を大切にしている。個々の能力を発揮できる様に研修参加を促している。	男女問わず、年齢も20代から70代と幅広く採用され、開所以来就労している職員もある。今年初めて派遣職員が就労し、現任職員が同じ業務をしながら新任職員を指導している。入職して介護福祉士の資格を取得した職員も多く、グループホームが好きだと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各ユニット会や全体会議を利用して、入居者様1人1人に合った対応を統一して実施出来る様取り組んでいる。	年1回、外部から講師を招聘し、法人全体で人権研修を実施している。グループホーム協議会主催の人権研修に参加し、全体会議で研修内容を伝達している。法人理事長は、積極的傾聴と自己研磨を推奨している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務遂行レベルを用い、評価し研修参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の研修へ参加し交流を深め質の向上に取り組みしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しできる環境づくりに努め、安心して生活を送れる様な関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、入居時にしっかと家族の要望を聞き、いつでも話し出来る関係作りに努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穂人、家族からの要望を伺い、その方に合った対応を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力、レベルに合った生活の場作りを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミニュケーションの場を作る。また、状況変化など報告し、家族と一緒に本人を支えられる様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見や近くの神社へ初詣など季節の祭りや地域行事に参加しいる。	馴染みのある地域祭りや初詣の外出を楽しんでいる。午後から配偶者とともに、スーパーに出かけたり、公園を散歩したり、自宅で入浴する入居者もあり、夫婦で過ごせるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やレベルを把握しながら、入居者同志の関わる場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の言動に気を掛け、センター方式を活用し、希望、意向を把握している。困難な方は家族との会話から本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居者の思いや生活歴、できることを把握している。把握した気づきや変化等の情報が、印字の色を変えて記載され、全職員による共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴など情報えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の各ユニット申送りで日々の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット毎に担当者会議を開催、家族の要望やセンター方式をかつようしケアプラン見直しを行っている。	介護計画担当者が立案した計画を担当者会議で話し合っている。担当職員によるモニタリングをユニット会議で話し合い、計画の見直しをしている。アクティビティの参加状況をモニタリングし、入居者が笑顔になる機会や場づくりに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、バイタルチェック表、ケアチェック表など個別的に記載しケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院に協力を得ながら入居者のニーズに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物、図書館利用、地域行事への参加を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からの訪問診療、入居前からの掛かり付け医受診など希望におおじて、他科受診の支援している。	腰痛や原因不明の熱発があり、系列医療機関だけではなく、整形外科や皮膚科、画像検査のできる総合医療機関の受診を支援している。管理者が看護師のため、医療機関との連携が充分にとれている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで看護師が情報を得て早めに対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員の協力で病院関係者との情報交換出来ている。日頃より病院関係者との連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「看取り」について説明、同意を得ると共に、状態変化に合わせて主治医家族との連携を取り、方向性を決め支援している。	腎疾患で、経口摂取できなくなった入居者の看取りをその時々の家族の意向を傾聴しながら支援し、家族からの謝辞もあっている。状況に応じて1日毎の輸液や夜間吸引は隣接する医療機関と連携しながら支援したが、今後の看取り支援に向けて、併設医療機関への情報提供の在り方が課題となった。3ヶ月もの終末期は、職員の疲労や重圧感も強かったがエンパワーメントする機会になった。	今回 の看取りの振り返りとして、ご家族に終末期 の入居者の心身状況で変化した心理 をお話いただく機会を設けていただくことや、今後の看取りにチームの一員として家族が関わられることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時対応の勉強会をグループホーム内で行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回行っている。また、運営推進会議において、地域の方にも参加頂いている。	昨年10月、運営推進会議前に夜間を想定した避難訓練を実施している。ユニットから4名、併設医療機関から2名の職員で、火災の通報と避難を実施した。通報は声が届きにくいのでマイクを使ってはとの意見があった。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、誘導時の声かけには、特に周囲に気を配りながら声かけをしている。	それぞれの心身の状況に応じた声かけが実践され、トイレ誘導では、入居者の同意を得てから、手を握って誘導するように努めている。日常のビデオ撮影は、短時間であったが客観的に環境整備や日々の介護を振り返る機会となった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表出できる方には自己決定できる場面を作ったり、はたらきかけをしてる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、臥床時間、食事時間はその人のペースに合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めの手伝い、散髪時にはご本人の好みに合わせた対応している。 洗面所の鏡の位置を車椅子用に低くしたり、ブラシを置いている。服は好みに合わせてご自分で選んで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる範囲で一緒に準備（下ごしらえ盛り付け）片付け（食器拭き）をして頂いている。 メニューも季節に応じた旬のものや入居者の好まれる料理を取り入れている。	ユニット毎にメニューを作成し、全職員が食事づくりを担っている。入居者の状況に応じて、テーブルを分け、職員の見守りや声かけ、介助が行われいる。別テーブルで1人で食事をする入居者については、家族に了解を得ながら支援するなど、それぞれのペースで食事をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、足りない時には好みの物を補食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないができる方には、付き添いで歯磨きや、うがい、できない方にはスポンジでケアしている。義歯の方には義歯を預かり洗浄液につけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表でパターンを把握するように努め、トイレに誘導している。	各ユニットに、車イスの介助が容易な広さのトイレが2ケ所設置されている。紙パンツを使用している入居者もあり、皮膚のトラブルにも考慮し、下用のタオルの実費負担を家族に提案する予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、食物繊維は補助食品を利用したり、下剤を減らすように個々に応じた対応をとっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日と時間は決めているが、本人の要望や状況により、適時入浴支援している。入浴ができない時は足浴や、ドライシャンプーを行っている。	毎日入浴する入居者もある。浴室は広く、三方向から支援できる個浴槽が設置されている。キャスター付きのシャワーチェアが設置され、車イスの入居者は職員が2人体制で入浴を支援することもある。入浴拒否される場合もあるが、声かけを工夫したり、自宅の浴槽内で洗身されたりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣や体調に合わせて、就寝、休息に心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を共有するためにノートを利用している。 状況変化時は必ず報告して対応しており、今後も薬の副作用など、介護で話し合い理解を深めたい。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに応じて出来る範囲で役割を持って頂いている。 レクレーション、カラオケ、生け花、ぬり絵など		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にはそえないが、週2回バスで買い物やドライブに参加して頂いている。レベルが落ちてきているため、少しずつ難しくなっている。 ご家族の協力を得て、ドライブや買い物に出かけられいる。	毎日午後から、配偶者と外出する入居者もある。敷地内の桜が見事に咲き、玄関前で花見をしている。玄関前でのレクレーションでは、入れ歯が外れるほど大笑いした入居者もあり、広い敷地を活用して、外気浴や気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じて所持されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温計を利用して、換気や室温の調節をしている。季節を感じて頂けるように環境整備をしている。	1階の玄関を中心に4つのユニットが1・2階に開所している。入居者の心身の状況に配慮し、装飾を撤去したユニットもあるが、共用空間には季節の花が活けられ、退去した方の家具や武者かざり、机や椅子、ソファが置かれている。食後、入居者はそれぞれの場所で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性やレベルに合わせて食卓を大小に分けたり、椅子を設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き、使い慣れた物や好みの物を出来るだけ持って来て頂いている。寒がりの方には電気毛布などを使用している。	各居室入口には暖簾が掛けられ、氏名が掲示された居室もあり、居室間違いを防止している。使い慣れた家具や洋服かけ、日用品を持ち込んだり、退去した方の家具を使っている居室もあり、居心地良い居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに張り紙をしたり、ドアの開閉がしやすいように改善した。部屋の分からない方には入口に解りやすく名前を書いたり、目印を付けたりしている。		